

平成 30 年度 大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画  
策定協議会幹事会

日 時：平成 30 年 10 月 29 日（月曜日）午後 2 時～ 4 時

場 所：マッセ O S A K A 大ホール（大阪府新別館南館 5 階）

出席者：別添参照

【議事概要】

(1) 大阪府自動車 NO<sub>x</sub>・PM 総量削減計画〔第 3 次〕の進行管理について

①総量削減計画進行管理検討部会報告（資料 1：事務局）

- ・ 9 月 7 日開催の総量削減計画進行管理検討部会における検討結果の概要を説明  
⇒（出席者からの意見等なし）

②平成 29 年度における大阪府内の大気環境の状況等について（資料 2：事務局）

- ・ NO<sub>2</sub> は平成 22 年度から 8 年連続、全局で環境基準を達成。
- ・ SPM は平成 28 年度から 2 年連続、全局で環境基準を達成。
- ・ 大阪府では、大気環境の改善状況等をわかりやすく提示できる「濃度解析マップ」を平成 29 年度に作成。今後、これをホームページで公開する予定。  
⇒（出席者からの意見等なし）

③平成 28 年度における自動車排出 NO<sub>x</sub> 等の排出量の推計について（資料 3：事務局）

- ・ 自動車 NO<sub>x</sub> 排出量は 12,430 t で、平成 21 年度から減少傾向。ただし、平成 27 年度から 1.2%増加。
- ・ 自動車 PM 排出量は 590 t で、平成 21 年度から減少傾向。
- ・ NO<sub>x</sub> 排出係数は平成 21 年度から減少傾向。
- ・ PM 排出係数は、バス、普通貨物車、特種（殊）車及び小型貨物車は平成 21 年度から減少傾向であり、乗用車は横ばいの状況。
- ・ 年間走行量は基準年の平成 21 年度と比べて 4%減少。ただし、平成 26 年度以降微増。車種別では、排出係数の大きいバス、特種（殊）車の走行量が増加しており、来阪外国人旅行者数の増加や宅配便数の増加が一因として考えられる。  
（注）平成 21～27 年度の走行量算定には平成 22 年度道路交通センサスを使用。  
平成 28 年度の走行量算定には平成 27 年度道路交通センサスを使用。
- ・ 平均旅行速度は、平成 21 年度と比べて 4%上昇。ただし、平成 27 年度より減少。

⇒（出席者からの意見等なし）

④平成 28 年度における協議会構成機関の自動車環境対策の進捗状況について（資料 4：事務局）

- ・対策全体による NOx 削減量は平成 27 年度より減少。
- ・対策全体による PM 削減量は平成 32 年度目標を達成。
- ・平成 28 年度の NOx・PM 削減量を対策別にみると、「排出係数の減少」（自動車単体規制、車種規制、エコカーの普及促進）による削減量は平成 27 年度より増加したが、「走行量の減少」（交通需要の調整・低減）による削減量及び「旅行速度の上昇」（交通流対策）による削減量は平成 27 年度より減少。
- ・平成 32 年度目標の達成に向けて取組を継続的に実施。

⇒（出席者からの意見等なし）

（2）構成機関の取組紹介

①近畿経済産業局の取組（資料 5：近畿経済産業局資源エネルギー環境部）

- ・クリーンエネルギー自動車の導入及び充電インフラ・水素ステーションの整備に係る補助金、大気環境配慮型 SS（e→AS）〔ガソリンスタンド〕認定制度について説明。

[主な意見]

（和泉市）市町村別の EV 登録台数は公表されているか。

（近経局）登録事務は当局の所管外であるため把握していない。

（事務局）大阪府では一般財団法人自動車検査登録情報協会からデータを購入手して府域のエコカー普及台数を集計しているが、市町村別台数までは集計していない。市町村別台数についても一般財団法人自動車検査登録情報協会からデータを購入手できると聞いている。

②大阪府都市整備部交通道路室の取組（資料 6：大阪府都市整備部交通道路室）

- ・「道路と鉄道の立体交差化」、「交差点の機能向上」等の取組について説明。

（3）その他

①交差点近傍等における二酸化窒素濃度の把握について（資料 7：事務局）

- ・交差点近傍等における二酸化窒素濃度簡易測定結果（平成 24～28 年度）及び平成 32 年度将来濃度予測結果について説明。

②FCV 贈呈式について（資料なし：大阪府商工労働部成長産業振興室産業創造課）

- ・大阪トヨタ自動車㈱及び大阪トヨペット㈱から FCV「ミライ」1 台が大阪府に寄贈され、本日、大阪府公館で贈呈式を行ったことを報告。

以上